

# V 施工(16. 左官工事) ①重要事項の解説

「16. 左官工事」で2回以上繰り返し出題のある重要項目(H8～H27)は、下記の通りである。

## (1) 吸水調整材

※過去に選択肢問題として6回出題有

- ・吸水調整材塗りを行った場合、下塗りについては、吸水調整材が**乾燥**した後に行った。
- ・下地に吸水調整材は、多く塗るほどモルタルの付着力を**低下**させるおそれがある。
- ・セメントモルタル塗りでの下塗り前の**水湿**は、施工前日に十分散水し、下地に水分を吸収させた。
- ・コンクリート下地へのセメントモルタル塗りにおいて、下地に吸水調整材を**2回**塗り付ける。
- ・コンクリート下地に使用する吸水調整材は、耐アルカリ性があり、耐水性のよい**合成樹脂エマルジョン**とし、無機質充填材等を含まないものとする。

## (2) タイルの剥離防止

※過去に選択肢問題として4回出題有

- ・タイル目地の深さは、タイルの剥離防止のために、タイル厚さの**1/2以下**になるまで目地モルタルを充填した。
- ・タイル張る工事で、タイルのはく離防止のために、厚さ18mmの二丁掛けタイル張りの目地深さを**6mm**とした。

## (3) 伸縮調整目地

※過去に選択肢問題として4回出題有

- ・タイル張りの下地モルタルの伸縮調整目地は、コンクリート躯体の亀裂誘発目地と**一致**するように設けた。
- ・タイル後張り工法において、モルタル下地に張り付けるタイルの伸縮調整目地の幅は、**10mm以上**とした。
- ・縦壁ロックング構法によるALCパネルへの磁器質タイル張りで、ALCパネルの目違い精度は**6mm以内**とした。

## (4) 下地処理

※過去に選択肢問題として3回出題有

- ・高圧水洗による下地処理は、水圧及び目荒し時間を適切に設定し、モルタルの接着に適した**粗面**に仕上げた。

## (5) モルタルの量

※過去に選択肢問題として3回出題有

- ・モルタル塗りにおいて、1回に練り混ぜるモルタルの量については、**60分以内**に使い切れる量とした。

## (6) タイル接着強度

※過去に選択肢問題として3回出題有

- ・タイル接着強度の接着力試験における試験体の数は、100㎡につき**1個**以上とし、かつ全面積で**3個**以上とする。

## (7) 下塗りの強度

※過去に選択肢問題として3回出題有

- ・モルタルの調合において、上塗り・中塗りの強度は、下塗りの強度に比べて**低く**する(貧調合)。

## (8) モルタルの調合

※過去に選択肢問題として2回出題有

- ・石工事における床用敷きモルタルの調合は、**容積比**でセメント**1**に対し砂**4**とする。

## (9) 塗り厚

※過去に選択肢問題として2回出題有

- ・ポリマーセメントを調合したモルタルを塗り付ける際の1回の塗り厚は、**6mm**を標準とし最大でも**9mm**までとする。